

東洋産業だより

Vol.264



その照明器具、大丈夫？




新年あけましておめでとうございます。寒い日が続き感染症等も流行っていますが、お元気にお過ごしでしょうか。さて、今回は、照明器具に重点を置いてお話ししたいと思います。

今お使いの照明器具は蛍光灯でしょうか？LED照明でしょうか？蛍光灯に関しては、水俣条約締結国会議の決定を受け、水銀使用製品である蛍光灯は2026年1月より順次、製造と輸出入が規制され、2027年末までに一般照明用の製造・輸出入が終了する予定です。ただし、今ご使用中のものや在庫があるものに関しては、規制はなく、問題なく使用ができます。

ところで、蛍光灯にはガラスが使用されています。工場内をよくよく探してみると発光管だけでなく、防虫用のランプや殺菌ランプなどもあります。また、LED化が進んでいるところも多

いと思いますが、「LED照明だから安全、飛散防止は不要」というわけではありません。LED照明のカバーはプラスチックのイメージが強いと思いますが、中にはガラス製のものもあり、防虫用LEDランプの中にもガラス製のものがあります。さらに、プラスチック製だから安全というわけではありません。強い衝撃を受ければ、割れることがあります。ガラスほど散らばらないにしろ、破片がでます。

次に、見落としがちなのが非常灯や誘導灯です。耐熱性などの面からLED化は難しく、非常灯へのLED導入は、2014年ごろから始まり、2017年6月の建築基準法告示改正で一般化しました。そのため、それ以前に設置しているものの多くは、ガラス製  の発光管を使用している可能性が高く確認が必要です。



照明の飛散防止商品

シュリンクタイプ

ランプに直接シュリンクされた商品。ランプ交換時などの落下にも安心。



チューブタイプ

普通のランプに取り付けるタイプで、繰り返し使用可。取り換え時の危険性あり。



また、照明ではありませんが、製造エリアではない検査室や食堂、廊下、応接室などには、温度計や時計、工芸品などガラス製のものが置かれていることがあります。つい見落としがちなので合わせてご確認ください。

状況に応じて、材質を確認し、割れにくいものを選択する、もともと飛散防止になっているものを選択する、後付けの飛散防止チューブなどを取り付けるなど、一度、使用中のもの、在庫のもの合わせて確認をしておきましょう。

今月の

豆知識

お正月飾り



今回は新年あけて1回目ということで、お正月飾りについてお話ししたいと思います。お正月飾りは大きく分けて3つあり、門松、しめ飾り、鏡餅です。それぞれ、縁起がいい植物や形などで作られているのが特徴です。

門松は年神様を家にお迎えするための目印で、玄関や門の両脇に対で飾られ、松竹梅で作られます。松は長寿や繁栄、竹は子孫繁栄、梅は生命力や忍耐力を表しています。次に、しめ飾りは年神様を迎えるにふさわしい神聖な場所を表しています。地域によって差が大きく、形や飾る期間は様々です。



牛蒡（ごぼう）じめ、大根じめ、玉飾り、輪飾り、前垂れなど様々で、橙や裏白、紙垂（しで）、稲穂などを添えているものが多く、玄関に飾ります。



最後に、鏡餅は神様へのお供え物です。上から橙（だいたい、ミカンではありません）は家が代々（だいたい）栄えるように、大小のお餅は円満、福が重なるように、裏白（お餅の下に敷くシダ植物）は地域によって昆布、するめ、串柿などを飾ることがあり、葉が落ちないことから、長寿と生命力を意味します。

門松やしめ飾りは、地域のどんど焼きなどでお焚き上げをし新年に迎えた年神様をお見送りし、その煙で厄を払います。鏡餅は鏡開きで刃物を使わず木槌などで割って、年神様の力を分けてもらう、福を分かち合うといわれています。

今年は丙午（ひのえうま）です。太陽のように明るく、馬のように前向きでパワフルな一年にしましょう。

